宮古教育事務所便り
第104号
令和5年
10月30日（月）

宮古の風

～ 新しい風は東から ～

来月、宮古サーモン・ハーフマラソンが開催されます。家族と出場する予定ですが、秋風を感じながら、市街地を走り抜けることが楽しみです。県内外から集まる多くのランナーへ、歓迎の気持ちを込めて温かい声援を送ります。
文責：村上　稔

宮古地区地域学校協働活動推進員（コーディネーター）地区別研修講座

９月 25 日（月）宮古地区合同庁舎を会場に、保護者や地域住民、教職員 15 名の参加のもと、地域学校協働活動やコーディネーターの役割等について理解を深めること、地域学校協働活動推進員（以下、推進員）の資質向上を目的とした標記研修会を行いました。

講義「地域学校協働活動推進員の役割」

宮古市立宮古小学校　地域学校協働本部
地域学校協働活動推進員　大村　光代　氏

【講義から】
◆推進員が、地域学校協働本部と学校運営協議会のパイプ役となり、熟議の内容について、企画の立案をしたり実践したりする役割が求められている。
◆学校と地域をつなげる際には、担当者と打合せを重ね、ねらいを確認することが大切である。学校からのニーズをもとに、協力してくれる方を集めること、地域の多様な経験・技能をもつ人たちと連携すること等、サポート体制を構築することが大切である。
◆活動に協力したボランティア名簿の一覧を作成したり、先生方と今年度の活動の振り返りをしたりする等、次年度に向けて活動の成果や課題を整理する。

「グループ協議・演習」

参加者と講師、発表者全員で、推進員の役割や業務の進め方について協議と演習を行い、校外学習を進める際に必要な手順について、全体で確認しました。
学校や地域との打ち合わせや連絡調整の方法、文書のつくり方等、様々な話題が出され、「仕事の進め方について再確認できた」や「今年から推進員になったので、役立つ内容ばかりだった」等の感想をいただきました。

事例発表①「学校と地域のつなげ方 ～宮古西中学校の取組～」

宮古市立宮古西中学校　地域学校協働本部
地域学校協働活動推進員　山﨑　智恵子　氏

【発表から】
◆地域の方から稲藁や竹等の材料を提供していただき、生徒がミニ門松をつくり、地域の高齢者へプレゼントしている。
◆地域から多くのボランティアを募り、生徒へ読み聞かせや学校図書館の整備をしたり、放課後の学習支援を行ったりしている。
◆部活動の外部指導、牛伏郷土芸能保存会による指導、市内企業施設の方々によるキャリア教育の取組等、地域の方に講師として協力してもらっている。

事例発表②「学校と地域のつなげ方 ～山田町の取組～」

山田町教育委員会事務局
地域学校支援コーディネーター　甲斐谷　紀代美　氏

【発表から】
◆子ども達が多くの体験活動ができるように、漁業体験やマリンスポーツ体験等、町の教育資源をプログラム化し、各学校へ紹介している。
◆地元の企業等とも連携・協力し、学校の要請に応じて、様々な学習のゲストティーチャーとして紹介している。
◆地域学校協働活動を支える「活動サポーター」の育成講座を実施し、受講者が子どもの体験活動をサポートしている。

推進員は、学校の希望や困っていること、地域の思いを受け止め、連携・協働という関係の中で一緒に活動を考え、調整し、支援するという役割を担っています。大事なことは、地域と学校が単に一緒に何かをするということではなく、「目指す子どもの姿」を共有し、その実現に向けて活動していくことです。参加された推進員の皆様は、普段から担当者と打ち合わせを重ね、常に「子どもの姿」や活動の目的を考え続けていました。
研修者の感想に、「学校に協力するボランティアが地域に広がっており、子ども達のためにできることを探している。地域とのつながりを大切にしたいと改めて感じた」という言葉がありました。推進員がパイプ役となり、地域住民や保護者、民間企業、団体等が幅広く地域学校協働活動に参画し、子ども達の学びや成長を支えていくという姿を、これからも目指していきます。

地区別体力向上担当者研修会について

９月 22 日（金）宮古市民総合体育館を会場に、管内各小学校から１名悉皆参加で開催しました。はじめに、岩手県教育委員会事務局保健体育課　松村　毅　主任指導主事より「本県の体力向上の現状と取組の方向性」についての説明がありました。次に、中京大学スポーツ健康学科　中野　貴博　教授から「運動、食育及び生活習慣の改善と体力向上」の講義を行いました。最後の協議では、研修者が「自校における６０（ロクマル）プラスプロジェクトの方向性」について検討を行いました。

【中野教授の講義から】

〇生涯にわたって運動・スポーツを継続したいと思うきっかけづくりを大切にしてほしい。運動による教育的効果を見失わず、楽しい運動につながるよりよい生活習慣を土台としてほしい。

〈きっかけづくり〉

・運動の「楽しさ」を伝えることを大切にして、子どもがおもしろいから運動や遊びをやりたくなるという気持ちになる運動機会を作っていく。

・先生方には、特に運動が苦手な子どもへ、「運動は楽しい」「仲間と関わると楽しい」「爽快感」等が感じられる運動機会を大切にしていく。

〈教育的な役割や効果〉

・運動を通して、健康、体力面の効果、何事にも努力できる力、挑戦する心、友人や仲間が増える、規律やルールを守る、協調性が身に付く等が期待される。

〈楽しい運動のための生活習慣〉

・睡眠時間の確保→朝は７時までには起きる→朝ごはんで生活スタート→食事は適切な時間に十分に摂る→午前中１回、午後１回は運動機会を確保→入浴で体のリセットも忘れない→ゲームやテレビの時間は、必ず家庭でルールを決めて守る

（研修者の感想より）

・運動が苦手な子どもであっても楽しんだり関心をもったりさせることが大切だと学びました。

・体力向上という、運動にクローズアップしがちですが、本日の研修を受けて、生活習慣（食事・睡眠）が土台にあってこその体力なのだと感じました。

・子どもたちが学校にいる時間の中で、「運動するのっていいかも」と思わせる機会をたくさん作っていこうと思います。

【協議から：「自校における６０（ロクマル）プラスプロジェクトの方向性」について】

（研修者の感想より）

・体力テストの結果を踏まえた授業改善（楽しいと思える授業）、オリパラ教育の推進（実際にやってみる、見る）、チャレンジカードの活用、メディアに関する取組等、子どもたちに「なぜ行うのか」「なぜ必要なのか」を伝え、子どもたちに必要感をもたせて取り組ませたいです。

・業間運動では、１つの運動能力だけでなくバランスよく鍛えられるように内容や取組を見直し、職員だけでなく、児童会とも連携しさらなる活性化を目指していきたいです。

地区別授業改善研修会について（体つくり運動：中３）

10 月６日（金）に、田野畑村立田野畑中学校を会場に、標記研修会を行いました。今年度は、「体育授業に対する生徒の意識や先生方の実態を踏まえ、体つくり運動の授業改善を図ること」をねらいとし、授業者の田野畑村立田野畑中学校　下川原　翔太　教諭、支援員の宮古市立宮古西中学校　佐守　央美　教諭、山田町立豊間根小学校　福田　健吾　教諭の ３ 名の先生方にご尽力いただきました。「実生活に生かす運動の計画」について、「生徒が自分の日常生活を振り返り、自主的に運動を計画し、家庭でも実践できる計画づくりに取り組む」という内容の授業を提案しました。生徒が、ICT を文房具のように活用しながら、自分の生活習慣の課題から設定したテーマを基に、運動を選択し、運動と思考を連続させ、自主的に取り組む姿がありました。午後には、岩手県教育委員会事務局保健体育課　生駒　大輔　主任指導主事を講師に、「体つくり運動のねらいや指導の具体」について実技を行いました。以下、小中の体つくり運動の例示（二次元コード）となります。是非、授業でご活用ください。

1 体の柔らかさを高めるための運動　2 巧みな動きを高めるための運動　3 力強い動きを高めるための運動　4 動きを持続する能力を高めるための運動

令和５年度体育授業改善研修体つくり運動事前研修会資料より

（研修者の感想より）

・３年間を見通した単元計画のもと、授業が展開され、大変勉強になりました。ICT や板書などをうまく活用しながら、生徒が困らずに主体的に動ける環境を整えていきたいと感じました。

・生徒の課題に基づき、単元のゴールから逆算した素晴らしい授業でした。生徒が心の底から運動を楽しみ、自ら考えて、生涯スポーツに触れていけるよう見習って、授業を考えていきたいです。